



大野市教育委員会たより

令和元年6月11日発行 第4号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと考えておりますのでご理解とご協力をお願いいたします。

先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：6月6日（木）午後7時～9時

次第 ・教育長挨拶

場 所：尚徳中学校体育館

・1部 説明「大野市の教育について」

対象者：尚徳中学校保護者（出席者15人）

・2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎尚徳中の現在の生徒数で運営していく中で、デメリットとして感じていることは何か。

⇒ ■音楽や技術などの専任教員を配置できないことや、部活動の選択肢が狭まっていることと感じている。

⇒ ◎再編により生徒数を確保し、教員の配置を考えてくれることはありがたいと思う。

⇒ ■教員の配置はクラス数で決まる。

⇒ ◎少ないからこそ友だちとの関係は密になる。大きい小学校に通っていた県外の友人の話では、隣のクラスの子は全然分からなくて、クラスの中だけの友人関係が大人まで続いているとのことである。学校全体で考えると今の規模はいいと思うが、教員数が確保できないのは短所である。

◎4年前に生徒にアンケートをとり、半数以上が陽明と尚徳が一緒になることに反対だった。今の環境で子どもは伸び伸び過ごしている。部活の選択肢は少ないが、健やかに育てられない環境ではない。大きい中学校を見ると、勉強やスポーツが出来ない子、素行が心配な子もいて、ケアが出来ていないのではないかと。尚徳や上庄は先生の目が行き届く規模だから、ケアが出来ていると感じる。

◎素案の時のアンケートでは反対の意見をした。その時は、子どもが小学生で富田小に通っており、すごく良かった。中学に上がり、大きい学校のデメリットが尚徳にはあまりないと思い、安心して通わせられると思っていた。ただ、今は早く統合してくれた方が良く感じている。現状の尚徳は、授業がうまくいかなかったり、いじめがあったりする。小さい学校でいじめがあった時、逃げ場がなくなると感じている。尚徳から大きい学校へ移った人から、メリットやデメリットはあるが、対応をしっかりとっていて、移って良かったと聞いている。部活では、小学校のときにやっていた競技がないため、入る部活がない。子どもの楽しみがない。陽明や開成の部活に行ける環境をつくってほしい。

⇒ ■部活にはいろいろな課題がある。合同で大会に出ているが、練習時間が確保できないなど悩みがある。大きい学校でも部員数の確保などが悩みとなっている。部活は中学生活で大きな割合を占めているが、本来は教育活動の1つであり、合同チームで出場することが本来の形ではないと考えている。

◎理想の学校像をみんなが吐き出したら、教育環境は良くなるのか。意見を聞くのは大事だが、保護者や子どもから聞くより先生から聞いて、再編案を考えた方が良い。

⇒ ■学校数や再編時期を検討するために、皆さんの意見を聞いて、それを基に再編計画の見直しをしていきたいと考えている。

⇒ ◎再編はいずれしないといけない。スピードを上げて向かっていくしかない。一つ一つ戻って練り直していくのでは時間の無駄である。みんなが納得する資料を出してもらった方が意見交換になると思う。

⇒ ■今、いただいた意見が計画見直しの参考となる。現再編計画の内容がはっきりしていないということか。

⇒ ◎開成や陽明はどこに学校ができて、そんなに今と変わらない。尚徳や上庄は、再編後の学校が住んでいる所からどのくらいの距離になるのか分からない。

⇒ ■いずれかの時点で示していかなければならないと考えている。新築についてや学校数などについて見直し

ていくこととしている。保護者が自分の子どものことを考えた場合、学校をどうしたらいいかを聞かせてほしい。

◎阪谷小学校は現在29人しかいない。昔に比べると運動会の種目も少なくなった。でも、地域の特色を生かした活動、田植えやどろりんピックなどを行っている。人数が少なくなったのでどこかと一緒になりたい気持ちはある。今すぐにでも行きたい。阪谷に学校がなくなると人が住まなくなるかとも思っている。

◎通学の面で不安だったため、今回は反対した。学校を建てる場所を提示してもらえるとイメージできる。

⇒ ■どこに建てるかや、既存の学校を使うかどうかなどの考えは、今は示せない。どこかの時点で見直しの案を提示できると思う。

◎街の中学と村部の中学では再編に対する関心が違う。ゴールがあって意見を出してくださいにしないと意見は出ない。

◎自分も複式育ちではあるが、なんとか生きていけると思っている。子どもは複式でも、1学年に1クラスでも、たくさん児童がいる中でも、その中の1人として、生きる術を学ぶと思う。再編のことや学校のことと言いたいことがあっても、田舎では知っている人ばかりで立场上話することができない。再編に関心のない人に、意見を聞いたり、アンケートを書いてもらっても浅い考えであり、右往左往するだけと思う。学校は地域のものとも基本的に思っている。子どもの頃から地域のいろいろな人を知っているのが当たり前と思っていた。地域の濃厚さは、校区が広がれば広がるほど薄れていく。音楽や美術などの教科の指導について、先生は専任ではないが一生懸命してくれると思うので、そんなに影響はないと感じている。部活については、全員が納得できる部に入れる訳ではない。子どもはやったことのないスポーツをやっているが、自分なりに頑張っているのでも有難い。部活が一番思い出に残るかもしれないが、日々のいろいろな所で育っているのではないかと思う。再編計画のたたき台があると意見が言いやすいというが、出す前に丁寧に意見を聞いてから出そうとしているのであって、後戻りしたとは思っていない。

◎子どもが尚徳に行くことになった時、生徒数が少なく不安があったが、「学校が楽しい」というので良かったと思っている。中学校1校、小学校2校になると子どもへの影響がどうなるかを考えてしまう。大人は見守るしかない。何も言えない。



◎適正規模や部活動などを考えると再編は仕方がないと思う。規模などは教育委員会に任せたい。子どもは富田小で里神楽を自分でやりたいと言ってやっていた。尚徳での修学旅行では、国会議事堂などいろいろな所を回らせてもらって、

子どもに「どこが一番楽しかったか」と聞いたら、「販売活動」と言った。やはり、地域ならではの活動が大事になってくると思う。再編後、地域とのつながりのある学習をどうしていくかなどを考えてほしい。地域に学校がなくても、そのようなつながりがあることで地域の人も違った見方をしてくれると思う。

◎本来の計画が実行されていれば、娘は陽明中に通っている予定だったので残念に思っている。いずれ大きい社会に出て行く子どもたちが、もっと多様で広い社会に触れておくことは大事であると思っているからである。先細りが見えている現状で統廃合は避けられない中、地域のための学校でなく子どものための学校であってほしい。地域が廃れるとよく聞くが、地域は行政機関に任せて、学校は子どもを育てることにもっと力を傾けて良いと思う。教育の明確なビジョンを出してほしい。例えば、全国の中でも先進的にICTを進め、全教室にプロジェクターを入れるとか、全員にタブレットを持たせて勉強させるなどして、空いた時間に子どもたちを見守ったり、体験活動に力を入れたりするなどである。こういう学校をつくるから中学校を1校または2校にするなどの説明をして意見を聞いてもらった方が良い。

◎今日は、現状を知るために参加した。学校の場所や校数の案を2~3案出してもらえると選択しやすい。陽明、開成ベースではなく、村部の学校の活用も考えていただきたい。部活については、子どもが選択できるのはありがたい。再編については前向きに考えている。

お仕事等で忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。